

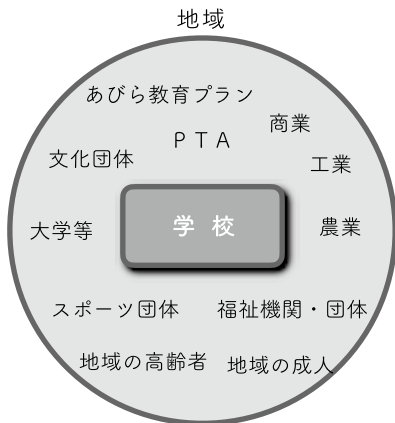
地域学校協働本部①

学校が核になる

前回は、なぜ、安平町が「子どもにやさしいまちづくりPJ」に取り組むのかを紹介しました。

もう一度お伝えすると「将来にわたって子どもの声が地域に響き、若者・子育て世代で賑わうまち」をつくるためには、世代や年齢に関係なく「自分の人生を豊かに生きる」ことが大切です。

大人であろうと子どもでもだろうと、熱中して遊べることは豊かな証拠です。子どもが思いきり遊ぶことができ、自分の考えや意見を当たり前に言える環境がつけられれば、世代を超えてまちに賑わいが生まれてくる。そのきっかけとなるのが「子どもにやさしいまちづくりPJ」です。



地域の中に学校がある

『自分の人生を豊かに生きる』ために安平町が取り組んでいるのが「あびら教育プラン」です。子どもから大人まで、遊んだり、探究したり、ワクワク（挑戦）したりするプログラムがたくさんあります。しかし、「あびら教育プラン」は任意なので参加しない子どももいます。すべての子どもが集まる場所は、やはり『学校』なのです。

※PJ=プロジェクト

「先生」以外の 大人と出会う

高校生にこんな質問をすることがあります。「今までの人生で、先生と呼ばれる人以外の大人と何人くらい出会っただろう？」すると「ほぼ、いません」と答える高校生が多くいます。出会ったとしても片手（5人以内）くらい。

昔は、町内会行事が盛んだったり、親の職場の人が家に遊びにきたり、大人社会の周りに子どもがいることが普通になりました。

しかし、現代は大人と子どもの生活がしつかりと別れ、子どもは学校が終われば、スポーツや習い事、「先生」と呼ぶ大人以外と出会う機会がほとんどありません。少年団で出会う大人も「先生」、学童も「先生」です。親戚のおじさんおばさんすら、昔に比べると少なくなっています。

【現代のいとこの人数】

10代	→	3.7人
20代～30代	→	5.5人
40代～50代	→	11.2人
60代～70代	→	17.5人

子どもの血縁に関する調査（2018）

子どもが過ごす場所を 子どもにやさしい場所に

子どもにやさしいまちをつくるには子どもが欠かせません。子どものいない場所を取り組んでも意味がないからです。

だからと言って学校に全てまかせるとは、結局、「先生」としか出会わせないことになり、世代や年齢に関係なく、子どもと関わり、子どもの考えや意見を聞きながら、学校や学ぶ機会を一緒につくること。そのために有効なのが『地域学校協働本部』というものです。PTAとも違うので、この続きはまた来月に、。